

[講演要旨]

伊勢宗瑞(北条早雲)の小田原城攻略は本当に 明応四年(1495)大津波に乗じたのか？

石橋克彦(神戸大学名誉教授)

伊勢宗瑞(俗に北条早雲,1456-1519)の小田原城攻略の年次は未確定だが、明応四年(1495)に相模トラフ巨大地震が発生して小田原が大津波に襲われ、その混乱に乗じたという説が注目されている。この説を史料地震学から検討する。【演者は2022年の第39回歴史地震研究会で「明応四(1495)年「相模トラフ地震」の問題点:付・北条早雲の小田原城攻略」という発表をおこなったが、発表時に「付・北条早雲の～」部分を取り消した。よって、この件の発表は今回が初めてである】

§ 1. はじめに

『鎌倉大日記』(以下、大日記)「彰考館本」(竹内, 1979)の明応四年に以下の記事がある。ただし、下線の「入」と「原」は「書籍館本」(片桐, 2014)で補った。

【史料】八月十五日大地震洪水鎌倉由比濱海水到千度檀水勢入大佛殿破堂舎屋溺死人二百餘九月伊勢早雲攻落小田原城大森入道

宗瑞の小田原城攻略は、かつては【史料】によって明応四年九月が通説だった。しかし、明応五年と推定される書状の検討から、明応五年七月以降(文亀元年[1501]三月以前)という見方が主流となった。

これに対して金子(2012, 2016)は、伊東市宇佐美遺跡で検出された15世紀末とみられる「津波」堆積層にもとづき、【史料】にみえる明応四年八月十五日の地震が相模湾の巨大地震であり、それによって小田原も大津波で壊滅したはずだから、宗瑞はその混乱に乗じて【史料】のとおり明応四年九月に小田原城を攻め落としたのだと主張した。そして、千頭の牛の角に松明を付けて侵攻したとする『北条記』などの軍記物の話は、巨大津波のことだとした。

いっぽう片桐(2014, 2018)は、大日記を史料学的に精査し、彰考館本の15世紀後半の記事は同時代史料として信頼できることを示し、金子説を支持した。

宗瑞研究者のうち、例えば黒田(2017)はこの説に批判的だが、池上(2017)は概ね支持している。

§ 2. 明応四年相模湾巨大地震の存否

石橋(2022, 2023)は、以下の理由から「明応四年相模湾巨大地震」説に疑問を呈している。(1)鎌倉が10mの津波で都市機能を失ったというのは過大推測、(2)江の島の「地殻変動」はトンボロの消長の誤認、(3)三浦・房総半島の地殻変動の記録はない、(4)京都の有感地震は鎌倉の地震かどうか不明、(5)関東・甲斐の同時代史料に記録が全くない、(6)宇佐美遺跡のイベント堆積物が津波堆積物である確証がなく、年代

観も1485年頃より前の可能性がある、(7)1433年永享地震のほうが相模湾巨大地震だった可能性が高く、その62年後に巨大地震が再来するとは考えにくい。

§ 3. 小田原の大津波に対する疑問

明応四年八月に小田原が大津波で壊滅的被害を受けたことは、文献史料的にも、津波痕という野外資料的にも、まったく証拠はなく、想像にすぎない。

仮に相模湾巨大地震が発生したとしても、1923年と1703年の関東巨大地震を参考にすると、小田原が大津波に襲われた可能性は低いと推測される。

1923年には小田原では津波の被害を生じなかった(例えば、今永, 2001)。1703年も小田原の津波は大したことはなかった。「祐之地震道記」(新収日本地震史料, 2巻別巻)には「たまたま家を逃出たる者は、海辺に逃迷ひて潮にとられたる」とあって、小田原中心部の宿場町・城下町までは津波が来なかったと判断できる。しかも、海に近い寺町の徳常院の過去帳の地震当日の死者26名中、津波による者は3名、同じく妙泉寺では22名中0名であって(下重, 2013)、「潮にとられた」人数が少なかったことがわかる。

§ 4. おわりに

宗瑞が、関東巨大地震による大津波に便乗する形で小田原城を攻略したという推測は、成り立ち難いと考えられる。仮に八月十五日に津波があったとしても、九月の侵攻は間が空きすぎている。本発表では「明応四年九月攻略」の年月の当否は何とも言えないが、「火牛の計の伝承を津波のこととする魅力的な見解」(伊藤, 2022)というような見方は改めて、攻略時期を再検討すべきだろう。

文献: 池上裕子, 2017, 「北条早雲」, 山川出版社; 今永勇, 2001, 「小田原市史 別編 自然」, 3章2; 石橋克彦, 2022, 第39回歴史地震研究会, O-04; 同, 2023, 本研究会, P-02; 伊藤拓也, 2022, 日本歴史, 889号; 金子浩之, 2012, 伊東市史研究, 10号; 同, 2016, 「戦国争乱と巨大津波」, 雄山閣; 片桐昭彦, 2014, 新潟史学, 72号; 同, 2018, 災害・復興と資料, 10号; 黒田基樹, 2017, 関幸彦(編)「相模武士団」, 吉川弘文館, IV 3章; 下重清, 2013, 内閣府(編)「1703元禄地震報告書」, 8章; 竹内理三(編), 1979, 「増補 續史料大成, 別巻」, 臨川書店。